

# 教育指導課便り

～つながり合い、共に学びをはぐくむために～

函館市教育委員会  
学校教育課教育指導課  
平成24年8月17日発行  
VOL.6

## 子どもを思う気持ち 函館市教育委員会学校教育部長 岡野伸二

夏の長期休業も終盤を迎え、学校現場からは、大きな事件・事故の報告もなく平穩に終わろうとしております。これもひとえに、各学校における休業前のきめ細やかな指導のおかげと深く感謝申し上げる次第です。休業中は、確かな学力の定着の取り組みとして、図書室等を開放し、基礎的学習の復習や自主的学習の支援にあたる取り組み、また、気になる子どもたちへの家庭訪問、定期的な校区内巡視、炎天下での部活指導、そして小学生が生き生きと参加していた林間学校の指導など、様々な教育活動が精力的に展開されておりました。これらの教育活動の根底には「目の前にいる子どもたちを何とかしたい」という函館の教師集団の熱い情熱のおかげと捉えております。教育方法論も必要ですが、教師の原点である「子どもを思う気持ち」こそ、改めて大切にしたいと思う次第です。2学期は長丁場です。そして、各学校が目標としている「身に付けさせたい力の育成に向けた正念場」でもあります。学校が一丸となり、全ての教師が熱い情熱をもち、子どものもっている知的好奇心を湧き起こし、自主的・自発的な学びが推進されることを、大いに期待しているところであります。今学期も、「学校現場を支える教育委員会」をめざして精進する所存です。どうぞご支援の程、よろしくお願い申し上げます。

### 第2回学力向上プロジェクト推進委員会報告

8月6日(月)に第2回学力向上プロジェクト推進委員会を開催しました。

会議には、推進委員13名、研究モデル校研究担当者5名が出席しました。

事務局から、平成23年度標準学力検査(CRT)、全国学力・学習状況調査、学習意識調査の問題別の分析、全体の傾向及び、本年度の推進委員会の方向性についての説明の後、各部会に分かれて、協議を行いました。

本年度は、学びの連続性を考慮し、これまでの本委員会作成の報告書等を参考にして、「函館の子どもたちの学びを支える学習活動モデル、学び方モデル」を作成する予定です。

各学校において、義務教育9年間のつながりを意識した教育活動の充実が図られるよう、モデルの例示を行っていきたいと考えております。

### 「笑顔キラリ! わたしたちの宝物」について

～園・学校・研究サークル取組紹介～

先日、小・中学校教頭会等で、連絡をさせていただきました「園・学校・研究サークル取組紹介「笑顔キラリ! わたしたちの宝物」」にかかりまして、複数の学校から応募をいただいているところでございます。

第1回目の募集は、平成24年7月25日(水)～平成24年8月24日(金)です。

たくさんのご応募をお待ちしております。

なお、ご応募いただきました掲示物につきましては、随時、教育委員会入り口に掲示させていただいております。

ご来庁の際には、是非ご覧ください。



### コラム：生徒指導(2)

#### 子どもたちの見取りと適切なケアを!!

生徒指導において、2学期は分岐点と言えます。効果的な指導により、子どもたちの1学期以上の成長が可能である反面、学級や学年が一気に乱れ、苦しい学年末を迎える危険性を含んでいる時期でもあります。その要因として次のような例が考えられます。

- ・長期の休暇による時間的な感覚や体のリズムの崩れ(チャイム着席や提出物期限が守れない、服装の乱れなど)
- ・学級内の人間関係の固定化によるマンネリ化(馴れ合いの中でのトラブル、いじめなど)
- ・対教師への意識の変化(指導の特徴や程度を知り、「甘え」が生じることで以前の指導が通らなくなるなど)

#### <2学期スタート時のポイント>

◎行事や学校生活の見通しを持たせ、短期・長期の目標を設定する。

(個々のレベルに応じた「今やるべきこと」「12月までにやるべきこと」を明確に)

◎悩みや不安の解消に努める。(1学期中の学習のつまずきや、人間関係の不安を理解し、適切なアドバイスを)

◎教師の指導・支援の必要性を理解させる。

(精神的な不安定さや学校生活等の大変さに共感しながらも、自己実現のためのかわりをつけることを説明)

何かと忙しい2学期ですが、臨時の教育相談等の時間を生み出し、教師が気持ちにより添うことで、前進できる子どもたちも多いと思います。